大江山

謡曲

秋風の音みだれてなびくなり。大江山の
ふもとの。松の下風。

光秀が我ならぬ世。抑は安丹国の。大江山の鬼神のなり。
酒呑童子の。
酒呑童子。頼光保昌の。
ならぬ。
酒呑童子。
仕生の者。何国を堺の夷へきて
男ふる細の。山伏の。
立て。

鎧ふりぬぎすてや元亨元年奥州
にる筑を頂き其主おろし給光
保昌元亨宗光季武信之時
又名をはる獨武者き彼を
以主人元亨すぐ筑の国子
有能乃元亨上月の都を立出て。
りまとへて西河原。宮原にて
ちらるる乃。平秋小教西しや鬼
神あらと大石の。おろふるる方原
じ。たてまつりのやはし曳れ。大江
乃山ふるふるる

我は鬼山を出し時。桓武天皇ふ
はる夫を申。宮僧等ふてるをさ
きしと。隠て奥州中ふ立ふ
ら。中門の扉ふと免と人
ふくいふ宮僧達。いつ方へ通
をして。は隠家へ立出て
さんは我等ふて筑紫ふ山の山
ふてら。如て比山隠家よ
ア道ふ通ふ。前後を立
ばさみ出るふ。今宵の御何
よりもつて有難ふ。扨名を

酒春童子と申奉はいつ成いまれ
給ひて、我名を酒春童子
といふるは、所生酒を愛する
故なり。只彼を生きくふ付て、
酒程面白き物はなく、容顔
美麗なる物はなく酒一つゆへ
に生まれ人間に出て程経
ぬれば、童子といひの比
より比山に住て、まんく
我比叡山を末代の極とせしか。
大内方といふ事せん。願はくは根

本中堂を立て、梵天の社の美
神を祝しるの名会さふ。一夜ふ
三千余丈の樹と成て、奇瑞をみ
せしかなふ。大内方一首の歌を
よむ。「のがくれたる三みゆく三ほる
ひえ仏生、我立山ふ寄加ふくせ
よ」と有しかば、仏生大内方
みるこらはまき、出よ〳〵と責
て、力あくして末代の比叡の
こゝを出しあり。抑比叡山を
出て、其後義ふ寺を所りる

いや何所も空あをき。雲ふ
きれ雲ふ集つき上オハ久堅の空
澄る。鄙の生路ふ遠き事中
世方の故人ふ逢る。筑紫ふ生れて
生まれつき初て強く天下。
何ふ生るる日れたてぬきみして飛り
身在の通をひてつきひたて
高山して高きの大山つき白山
あて山ふのみふして高の空
ある日みれ行ふ高れたる路ふ
きてつき拾ふ強日みんひく

都方何方ふ行ふきぐ山方江の山
み籠て居てつき翌ひくふの古住居
今空信ふ不孤ふ。面方を
失ふ生ふ有つき心あくおほ
しめせ。ひふ何ふ行るまほ
一なふ。一筋ふ
方ふ中て一樹の陰つき一河の流き
を汲てしる。古ふ生ふ孝より
為ふ人ふ生れる生て
つき我て孝より出ふ九形ち
高るまたら山て生れつき

童部の方に行きて、後の夏
祈りの日、一児二山にとりて
い祈をさるよりて、
宮倉、秋に童部の力あるを
うけて、のぼらんとす。
変じて物語せんものゝ
奥のあまの塚ふさで。
鬼離まやとゆゝ物を宣ふ。
美人名をえ、古江山。
聖く首にて祈遠。天の橋立
まの海。大山の天狗。

あるとき、酒めされよ切
酒を造ふよ。
何おの者ハ
何、比しも。杉の山、桂校
苅堂、まもう。
何をらん。鬼のしも、逢の
付名ありてヤア。
丹後、丹波の堺ある。鬼ら
城も程と。
酒も数ひぬ。
きて酒のうて。鬼をお自
そよ。怖まりて秋の別。

いかに〳〵。ろうろう友とお申しめせ我もその船
なかの手にあらち見るみち帰し
けふまでは駒てつかひそへ山かし。
狩しめぐるまり川きれ。なまあれハ
有明の。天も花に酔へりや。
足もとはよろ〳〵と。たゞよふらうらうよ
ふら〳〵。雲おりおりて。その中にめぐり見え
ぬ。鬼の中に入りにけり。何ら御はう子
押伏せて。我のかはかりにかけり
し
中入
院に付れもの
たり。空も暗き鬼の城。鉄の戸

びらおしひらき。見まはせば不思議
や今までは。人のかたちと見えつる
生たけ二丈あまりの鬼となる。
鬼神の猛び給ふまするたなりいきほ
ひ。此何事をふりまはす郷
上の猛て顕したまるるあまくだりて
命ら君の為。その神武社八
南無や八幡山王権現我らに力
をそへ給へとて。頼光保昌綱公時
貞光季武獨武者をひとく
つにして中にまはしをふしまはる鬼神

乃上ふ。劔をとりて光の像、稀有
震動。弱し。上情あり。よの宮
仏を。仏をいらしてふ。鬼
神ふ横道あり物を獨武者 何鬼神
ふ横道ありやと中くの獨武者
いら虚言やあるとしらず。まさに
仏をして人を取。世方をなすべ成ぬん。
我をして言ふ。なつらん。保るう
ちに獨武者。鬼神ありてのうたま
へ。増てや是を勅宣あまして。
まも未。我力君乃。ふあまもも。何

まう鬼の右手ふるらん 日上 何おほ
をらんふまくよやをあよくをて。切
先を揃へて切てうる切乃二 上山行事
未ふ君勅して切。光みちる
鬼の眼。ひて日月乃如ありし。
照耀きてき形のらふ形をて白
へきやうてあき 伝乃二 下 新光保昌
本よりも 日下 おふ神ありとさ
いら新光らくはふいてら漢ひく
きとをとりてをりてをりとお
ふふ出て組て。えいやえいやと

組とそ[illegible]しら教光ふふ組つせ
らまして。鬼一ロふとんとなるを
教光ふりのうちを抜てはし
面しさし面れるふちちらふ
えいやとうへし。ぬまる鬼ハ首
うちなし。大江ハ山をみかえる
きて。都へとてはて。ゆりれ

感陽宮

割上 拾ちの感陽宮とゆ。都のまへ
里一万八千三百余里 ちと内表ま
地より三里高く。雲を清まて
拾ちとりて長生殿ありて門
ゆ里 ちと うゆう祠ハ巣地方四里
又ハ宮まも百余丈 ちと 雲を居る
ゆ金も。ゆ門あるてハる雑し
内ふ三十台宮ゆり ちと 真珠の砂る
里のいまい。金の砂を地ふハしま
長生不老ハ日月とも。いらをあ

ら〳〵と鶏〳〵 高 帝の御殿はあり方
宮〳〵なり〳〵孫方柱三十七丈 高 東
西九町〳〵南北五町 高 立子の
ちり〳〵ぬり〳〵ちりの中の中井〳〵さ
ぶら〳〵ちふ翔へ星上まちまち
きちは〳〵九。金銀をみの
きて暉々星。たてり月比新をみち
苔をを後るゝ地〳〵。おの〳〵
行をちり〳〵踏辻思ひ
たり。彩九雲の宮殿て。落葉重
ある。嵐ふ系社山遠ふ〳〵を

感陽宮 一

り宮九路を埋〳〵ゝ松苔〳〵て
八風旅人の笠を破るきたり
ちんりんと音くたゝ思ひのまゝ
ぬ。ふ上矢たちのふ折りまて。
〳〵遠山の雲ふ重なる重なる。
〳〵りたちふ高き。感陽宮
み巻物〳〵きいふ秦
武陽。燕の王九傷み。荊荷秦
武陽と中二人の者。ちんの王の美
園。弟よ樊大将朔ふ〳〵を拾系
内付ふ由中ふ〳〵 皆徐ヒト 牡丹セリ有 上 ぬ

て荊軻を佩劍を解て威儀を
あ。節會のまゝにおゐ給りて。
玉盃を進ぜられ給ふ。上金
銀珠玉の手階を踏。三里の間を
上りけるつき。高水を踏み地し
て。荊軻が伝ふ上まで踏ふ
る秦武陽。力体ふるひてをれ
して。ようやくて休らひ
なら見あるよ秦武陽。燕の
賊しき住所を知て。玉殿を踏
しまふ。膝して上り給ふ。まを

あさめて給ふ。ひて。まを積硯玩
て。玉殿を窺ふ。上。獨龍の墻
る宮をあらたつき。宮をたて
て典獄を日ちしもきひしき業
中みちんをんを解て中ふ
ゝ。上。生時帝ハ隙時の節會
を執りひ。燕使の参内を待
葬陽荊軻を大床の。拝ふ参
給中ふ。上。先秦武陽を迎
樊於期ふ。上を皇帝於
み使。上上。帝ハ

[illegible]

其時荊軻を燕の太子丹の客館に
置て、上流の侍へ立退いて帝に
是を奏聞申さば、第の隆の劍の影。
永乃たるべくなくまて。院の立退
まつむとて荊軻を期
たるるあまて。さて衣の袖よ
くいたぶりて。劍をも抑へ
て切て出るに。上流の
やがて人々ふまへ入たる。今は
時すでに遅しの

[illegible]

陽まで人として并あき琴の上手
は。まさに毎夜なるあしかる
を海ら〻奏聞よりいまは徒琴
乃音をゆたに。庁時の時をえさせよ。
琴の音をゆて其乃道を
まぬるまうけると思ふて
いふ事武陽相何とも者へきて
是程みまもを上て。何程乃
乃みへき。庁時乃暇を乞ら

せらまほしへ。ゆき又ゆきて行はかりて
ゆきをあらせまほしるゆてあしく
うゐ花陽夫人、名き楊貴を奏
しまへ。女王又て楊貴を奏へ
し。あより妙なる琴の音。飛
雲も地ゆ高く成ぬ。和らく移り
楊曲なまて。皆てやうなるゆ
琴。けてはれもおまれは
色豆花の春の琴。世い和風乗
ゆ柳花園アてとちんの蓮八
回し世の踊り。月の前のちへて

和春を告る和風。やをゆみて
まる、原重ちちゆ移る春
し波の露の玉ゆまるふたま
ちふ。ちよる白ゆ力。ちて原を
ちて。召まけや召まちや。
七人の原風ち。頭ゆ越へ
し。おて花の袖をゆ白ゆ
いまれけらん。ちうもり
ちちんちんが聖人の使を
けて。押へし。おて。二三百
ん乃琴の音を召ちゆ

[illegible]
[illegible]荊[illegible]荷を[illegible]て[illegible]
[illegible]おくまて[illegible]
時移る[illegible]と秘密[illegible]
[illegible]て荊[illegible]荷を拔へる日の夜
乃神を引切て風を踊り越
て。雷光のごとしる[illegible]ひ霰の
白き盤[illegible]てらんらんを[illegible]る
[illegible]地[illegible]。[illegible]の[illegible]柱[illegible]
[illegible]荊荷を[illegible]
を[illegible]て日劍を命[illegible]
つまて利劍を[illegible]

[illegible]劍を取て日
荷を[illegible]武陽を[illegible]
[illegible]ひ[illegible]失ひ[illegible]
[illegible]。[illegible]後[illegible]母[illegible]
亡ぼ[illegible]孝の[illegible]代万歳を保ち
[illegible]是后の[illegible]秘
密[illegible]

知章

次第上 春をこゝろのしるべにて、ゝゝゝゝゝゝゝ。しらぬ旅にも出うよ。筑紫方よりも出たる僧にて候。我いまた都を見ず候程に。此度思ひ立都へ上り候。

上歌 旅衣八重の汐路を遥々と、ゝゝゝゝゝゝゝ我も来にけり、真帆引く波の雲かすむ沖つ舟。我も憂世の道出て、何処定めぬ海士の住、須磨や浦ある関に着にけり、ゝゝゝゝ。

此乃舟主何処共すゝぬ浦に舟

をよせて其へよる。海の西頃磨の
浦とやゝ中れ。けちなる暫休らゝ
中に男ひとり。又是なる旧跡を見
まゝて。新敷なる社を尋ね
探ゝ求るに。自然の力を
下る。平れ知事とうまたり。知
事とゝ平敦盛きゝ門の中なゝ。
逢みてゝ寸まん説。ゆら痛ハ
しやれ〳〵あふ信ゝ行る
を作みてゝきんれ見るゝ
ゝを見まゝて。平の知事とゝ

まゝれ行ふ。痛ハ〳〵存ぜ跡
を尋ひやれ〳〵きゝ不審ハ法理
見みてゝ。おゝの三男新中納ゝ
知盛のけるふぶの知事とやし人
ゝ。けゝの岩ゝて寸まる。ゝゝ
二月廿。上ゝふゝ又まけらき七日
あまゝて。所縁力人のゝゝの見て
まゝ重まゝるゝゝ。ゝ一枝の
陰ふ寄ゝ。一河の流まゝを汲む
も。皆是他生の縁ゝゝと。遠ゝ
力人ゝて寸まゝて。ゝゝ

来たりて、一百万会仏を
四回しまつるの方経けよ。経
こゝに弟ひたへ上き つゝく他生の
縁の方まをもて。後初めの方を
みまて。を後の利益をあらす
よしと思ひ方まはしたりて
弟ふもとよりまきはふ天一見
をとゝ永経三昧皆。何等遠立
者。ふ生あふ。物故ふの知事成
等正覚しは時もてくの上望ふ
を我をもちぬ方。然もちぬ馬

はあくの人形ら熟はをふ。仏
果ふ方ち修へ切上を一会方ち
きたふ。三昧のつをハはぬへ
し。増て如ふもとくはの。皆ふ
をうはあき跡を逆縁も形ぐの
あるを名きく 扨知感を
知事とくつをふ果ふてまくの
をんを知事も計きのふをきを。
不思知事をうけをうを。初をた
をけ我方を計きのひぬ。生縁
ふ知感を。時を形ふ長行たをを

[illegible]をひてを　ゆき　却の沖をハ出船
みるまをみひるるゝしてトりや馬上
みてれ。上　生法井の上まとてゝ
まゆゝ此名るあまゝ。サ寺町の海
乃面をやゝくゝとゝゝ。主を
はまけ馬あれせ。船乗所あの
アゝゝを遠遠されゝみ。みをの
河み流きはるを。はるをの別まを
をゝふゝとアゝ。沖の方へ引ひるい
あまゝ。ゝゝをしてゝゝを
ゝを畜数ゝゝるまゝ。アゝる

人後を僕ゝゝを　日下　雄名南
枝ゝ巣をゝけ胡馬北風ゝいぞひ
ゝ旧好を思ふ故ゝゝゝ胡
馬を北風をゝゝひ。はるをゝ思ふ
り毎ゝゝりゝゝはゝまゝゝゝ
ゝゝゝ思ふゝゝまゝ上　古
移ふりをゝ義て須アゝ浦。ゝ
まの磯ゝゝゝゝ逆縁ゝゝ
ゝゝゝゝ上ゝ実ゝ種ゝ我ゝ
ゝ。金ゝゝゝゝ一門の。内ゝゝ
ゝふゝ自ゝゝゝゝの閣を問

終へ里にも一門の内にて、男の
成人をらんしてゆく行きたる
を井の内にみちくれて住なれ世に
あき路の名をしたちまちの内や
帰る方を尋ぬ。頃しの里の
那山の。ゆくて行く男波。
ををさしてり田舎の浦波
出て尋ぬ。住み慣れ先の
尋やうしなくなる。先の
上の波ふるあ路へ。所も
波ニ人の浦住ひ。那山の風も

へ。ふも墨の衣をふ彼方路
をとふ上やく。上ていらの菩提
乃ち弟ひや。我をもらけうのる
しひ乃。陸あきうふ彼方を魄
霊ふ帰る菩提はよ。上浦ふへ。波
嶋許や波ニの浦。里海ひしる
ふひ路乃。うしなの山の世。
上那く風。里。苔木ふ生や菩提を
情を表旨成仏の彼岸乃海原
ふ浦ひ出る菩提さよ。上
多ふ花やふる乃ふ。浦

陸奥の国の名所。いう成人なる
ものまれなる。ほとゝぎすの
なくこゑ。やう〳〵ほのかに
聞とまりなるまき上初ちの花の
ゆきをとゝ。ものいひ出たるなるべし
るつもり。むかしみちのくの浦波の
陸奥物の真面目。はま白ひの環
ゆきて。やまぶきの花やちるらん
所も時も天涯の浦の月おぼ
ゆる。ものもの。やはり月のうつり
つゝ。ほのぼのとあけ
ぬるなり。

時なる男子我又勿別まゝ。
影乃路白波もあり。
とゝ。ほのぼのとあけ
海乃もえ川と成。浦乃波まね
て問てなひ。
生ものの有様なるみ付て
そ。龍田山乃ぶもの。
あひく撫のほし。
しきまて。主上二位殿を
めなてまり。
ゆゝ。形ハ所ゆゝ。海上の

[illegible]
水[illegible]上[illegible]弁に[illegible]
[illegible]中納言秋知卿、豊臣[illegible]
[illegible]船を[illegible]
[illegible]敵を[illegible]
引[illegible]打[illegible]知卿に監物
[illegible]命、主従義[illegible]
[illegible]知盛[illegible]
[illegible]町の沖に[illegible]
[illegible]大臣殿乃[illegible]馬を[illegible]
[illegible]命[illegible]知盛[illegible]

[illegible]大臣殿の[illegible]
[illegible]宣[illegible]知[illegible]監
物[illegible]命[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]命を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]大
[illegible]殿[illegible]宜[illegible]知[illegible]
[illegible]大将[illegible]

少て。[illegible]ゑ清家方を[illegible]
[illegible]屋をかしの人よ[illegible]
らるまるくも。強の抽をあら
しくりや　上[illegible]知まて

同
生筆ご人者あまて。清家
同筆みて。[illegible]
代を主和て[illegible]
ちら好り。門[illegible]
[illegible]れ[illegible]
[illegible]の山[illegible]
まを[illegible]

墨て和[illegible]きか上[illegible]
[illegible]。荷[illegible]を懺悔
み法[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
乃骨筆海の村さて真字に拙
ふどうどう屋まつてヤア　ーてまつて
おのーき武者。ヤア　新井弼を
をめうけて。ヤア角よせて　おのを
を計せー。ヤア知まうけつきりて。
ふて組てどうどおち。ヤアて押て
頭をつ切て。ヤアなる所をつ。ヤアき
乃弓弓屋会て。ヤア知まう頭をと
まて。ヤア孫ふ義まて計きりヤア俵
ちゆうけどうふ法をを思ふまふ
弓俵乃。ヤア帰ひちのを雑や。ヤアまて

[illegible]
まてれ法の友よりてまて乃紙
[illegible]
まう跡をてひたひまを跡を
ンクヤ
てたひまを

夕顔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

き都乃那をさしてのもゝ住
ゆおもひ〳〵。紀の森のおもへ
て帰る雲もちとせの松の月やしら
ぬところちかき五条渡乃ほとりを
らやの、ほの〳〵ちらぬ所まで露
尚てそ暮しける〳〵。不思儀
なりける屋つまやより、女の歌
を吟ずる声のきこえけり。暫佇ら
ひ居まゐて思ひ出ぬ。山のはの心
もしらでゆく月はうはの空にて。
影やたえなん。巫山乃雲をたち

まちふ陽臺乃本に情なく、湘
江乃雨をきゝ〳〵もそもんの外
を深るとかや。昔をたづね来よ
あまりも名をえたる、ちかき軒の
忍ぶ草、その〳〵ゐまき君
をむらさき式部が筆の跡に鐘
何某の院とかやに、たつね世を
つくまでに、見しも夢〳〵執心の
色も香もなき捨はつる。涙
乃雨で後の世のきかりとあきを
今もあをつまふくもろよ

こゝの浮世をや。さらふ風の
うせ乃まゝに真斯の風も吹よゝそ
吉野き空よりのゝ雪ふるこゝ
いとよりまさる女性ふ百年きて
乃れ〳〵けさのさてまてれら何す
きてれてき愛をて何ると中
れて〳〵きんれをて何まの
院まて何らへきゆきゆふ何素
乃山何素の雪ハ名の上乃達磨初
のそのそゆらん。みまをそ名乃
空ゆらん承ゑきてれく

第二

きふはそは兎よりむけり
けふる様人と見えたき。はる或ら
苔の跡よ。て何素乃流とゆて。
そ名をけそふ乃ら。きふら
愛そふ乃ふ歌の大后社。住吉
しそふるを。生世をゝて光
君。みゝ白の雪乃よふ。上きき思
ひを見ゆひ。名も隠しき鬼
乃ゝら。まもきれゝ苔むきる浮
雪乃流と流をよき上ふきや
れて苔より。名ふれふ雪を見ん

ゐるよ。我らも豊後の国の者。
そもそも昔は所縁とも上あって
みな自分の。霊仏清きひし世語り
を。なにとなく歩を。乃ひ
きオもとむらん。別て上もく
光源氏の物がたり。何遠路をも
ゆくとして。理きふ似たるよう
もの人業提ゆをきめて毎
みふし。詩として假名。語り伝
へ上まして中ふ上はなの自分の者。
強ふ傷きてなれある。情の道

も淡くうたちきるひしらの条
乃。ぎ長所みるひのふよるの
みよるし中君みして性体ひ
乃はぎ物はは仮ふはて
きるまあるとか物の所あも
又ぬなとは少家うう形るもの
はまみ。ぎうるる花の名も条
らんはしなの自分乃ぎはは
となるの人の食ハ白露乃情
をきるるのもは。まをなもと
なりるみし。美園の扇乃食毎可

たぐひに秋の契とて形見ありし
やどの夕顔の道の辺の
花も世に出づる光源氏の
名をながしし言の葉の
くだ秋の日あへなく暮れて宵の間
過ぐる夜半の松の風もおそろし
く風にまたゝく燈の
消ゆると思ふ心地して何となく
をり見まゐらせし夢の
かたくもあへなくいふせんよ思ひ川
うかれし人もいまさえて帰らぬ

水の泡と消えし夕顔の花
それにつけても遅く来りて
なほ世にありける女もあはれ思ひ
おなじくは中々に見し
その折も語らば同じ身の上に
語らはしつゝ涙とくしかれ
頼み深き仏の法をまもらせ給へる
有難や有難の法華経
やがて有難き経の功力にて
また女も女体の罪ふかき身も
恐しき物の怪に人失ひし

有様を。聚まれる人々の多くの為に。
よく弟ひのへとよりまや
初そ雪の野の。山のそこ一月新
乃。朗みく初しく夕色乃。まだ乃
雪乃消あき。そこの雪の世語
をうけて聚しきへるらし上兄
後へ爰もおの門ら。ぐくとき秋の
野らと成て。まき上池そこの雪の可
埋まて。ふるる松の陰閑く
み嘯きくるれら聲者
くくる村らをき。まも物おと

思ひ多ひしく。人の私を習り江
みえらまてうる方とあれ乃上ば
くくくら。行ふ音しを志る人て
来世し浦き。其孤き来孤き
聚ぶ葉しく。お僧乃人乃弟ひを
多て。思お僧の人々の弟ひを多
て。特く特しく夕色の部
乃中白。思ら人くる世花の
形ぶくも。思変生男子乃聚ひ乃
まくみ解説の衣乃。袖あら人者
ハ行をはゆんとうて思へる者

羽山。峰の杉ふるひ来て。時雨る
る樹々乃まばらひもあり。や来やの
前。清みなるそ。時雨の空
うけて雲の後まみ失みり

黒塚

鬼婆の衣々袋無乃。露乃
袖乃名残乃ちん上星々乃名残
乃東光坊乃阿闍梨。祐慶と申
聖あり。夫沙門拝撫乃行倫。
山々修行乃使ひあり。無聊
乃順禮回るそ。あ移門乃ひ
ひ。然るあ祐慶。申。ふ。
有て。四国切徳ふ越うんと。我本
山を立出て。形乃志を紀
乃路乃塩時乃浦を。

錦の宮乃折くハ折ち自まりく
旅衣都を重ねまち経しあくを
りり　みのゝ守し陸奥乃あまり遠ふ
心　つまふりをとこ　き　見てたゝや
陸奥あまり遠みまてはゆ乃着
てを経ふ。所の少の光の尺くを
ちる色ふ有り。春をうらゝかて
思ひれ　上　こゝをとゝ人の知る経。
知しまとよ所ら所しをる
夏世ふ秋のまて。朝ら乃風ら方
ふあら。胸を休まるるあく。

時ふ京しく着ぬまて。中て
ろむ春まて添ある。所ら宝色
形乃生活やあきいふはうち
春内中ひして達ふて活まて
り着る体乃者ふて。一年乃
春を乃しまへして　録ふ尺者
果乃着ふて春を経ふ。お春ら叶
ます　上　いふふやあるしゆるふ。
秋らを知て陸奥乃。あまら原
ふり着て。春をうる色く体
あし。敷をくハ秋らを惜みて。

つれなき君をこしまへして人里遠
き山里の松風寒き山の
尾みぞれてお君を来られべき
上よしや根雪の苔枕今宵を
まちの夢も結ばせん。たゞ君
をうし恋しく偲ぶる我れ
身もうきよのゆきにまちつら
人と其の戸を上して流れ思へを
痛ましさに、里、まちてとしまごえ
とてとぼそを開きてみせる
上たゞ袂も萎びる菅笠。

枯草や今宵あまり今宵の
君を徒まくらうしく袖の露
涙まじ。草の露のせくしあまり。旅
寝の床にさみしく
いかに何るしみや[illegible]の森。
何まぎるる物見て何と中物みて
おそしくて何まよひて我らのまち
の瞳のめの夢む、[illegible]
中物みておさらに見まい
立みて御見せしまへしてまなら
い抑も[illegible]

若年上砌や振人乃。みる
砌をいりて形く。賜うるを
きて之のうまれ上今者を
まる世者乃。何ぞ乃情をき
まり上月。まて入弟子上閑乃
うちふ曰上唐第乃名をうり道
し。唐仲乃名をうり人
者を人ふあるや上賜う
みを乃ようる曰上世俗る業
まて。物うを上儀やや人
男ふ生を文那ら曰上ようる抑き

世ふ生まで方をうるを上る抑
まよ上きう形乃人のうのちや。
先生身をたまけて去て。仏方を
形ふ仮ア也何ま曰上ようる夏世
ふ形ら上て。吹第僧あき方ちん
ち。人仏ふ諸の道みうあり形を
形らすとて孫ふあり。仏果乃
縁とあらさらん峰上地ふ
火風乃。仏ふあちらくもまりを
まて。生死ふ孫曰上。五道六道
みめうるうる峰上人乃まちふ。

凡人間の。何ものをもとなく
みの人のふるまひ。孫ふもて
者とある物を。美くの程をも形き者の
世をあくやりたきる我あらう。の
たるくもて恨をもうひあるを
くまも上初をも五條ゴをふて
夕白の者を看しもて上日條の
ふのうをきし。まもを名言人
あらん四上くもの乃ふ何をみこの
ゴ上ハ上て糸毛の事をもて
まを四上ヤ糸ゴ上ら者もまゴ

咲ちるを上ふるく人の間まくまの
著四上種みる秋の糸唐
月ふよるをや待めん四上くを
ゴ時くるる糸乃上あまくの
雑面さを上ヤ人四上もまくの つまふ
ビさを思ひ乃ゴ上浦ふ者言を
ハ乃ゴ猪あまゴ時さを者をのくひを
あまゴ乃ゴして餘ふ抜言ゴ乃を
殺ふ。上ある山ふ何ゴ世界を高ばき
て何て者ら世ふるをて者をき抜
隠ゴ中孤ゴめ人乃ゴ分ゴして。

思ひもよらぬ事にて、いと所
いかもよろしからぬ所にて、経ふ
者にらんに、杖にて、ふりたるふ
てに。あふ〳〵ゐまへて、あら園の
中をしるべにふかき里と思ひ
もよらぬ事を、物をふ。あら
ふ人の園をとる山にてを
あくまで上ふまやあり。
乃園の中を。物の陰より、ながめ
る。人力、弓箭を、持たる。軽
そ、とくにて、百ばかり。腰に、血ぬら

靴。鼻纖をみちて、胆張し。
ふふきて、くらんをせ。いまま
見て、ゆ乃へる。あまたの
塚。ふ。龍まる鬼の住ふ。
上と
姫、やうる、ものをみちのく。
あ達ふの、塚ふ。鬼ものまと
塚、ちん。歌のうちもうちん
と、上天ふまひ、所を、ゆ。
りへき、ものをちふ。
てふけて、りて、上ふ様人
ふまきて。ちみて、塚

百千る闇の中を。渡ろふ方にあまき
中つる、照す為にまいりたる、悪魔
をおさへ焔にて、歳陽宮の名なり。
みんくたるは郡風山風吹落
で修行稲妻を地にみちて空
うきまとる夜の夜叉鬼ひとみく
かんとて出ぞよる所しき
みりはなる錫杖の勢ひ。はりを
揮りて。怖しや東方に
降三世明王南方に軍陀利夜叉
明王西方に大威徳明王北方
に金剛夜叉明王中央に大日大聖
不動明王おんあろくせんだりまと
うぎ。おんはらうんうんたらた。
うんたらたらうんかん讃兄我身者
菩提心我名者断
悪修善、聴我説者得大智恵知
我身者即身成仏。即身成仏と
明王方。あまぐくみをうけてまつりけ
く祈をなせばまこと相なりよ
下も今にそはしも末
いつをとあしつる思あるらむ

に弱り果てゝ。地に身を伏して絶え
眼くらくて。足もしどろによろ〳〵と。
たゞよひめぐるあさましの御有様
に隠れ住しも浅間に成ぬ住ま
しや恥かしの有様やとて。ふ
聲を惜まず物語もしく〳〵と聲
を揚てよしなき我身の事に
泣き給ひし事を音に泣き給ひ兼
ぬるなり

夜討曽我

それ名も高き富士の根の。
さゝ猶ふりぞやゑらん　祐成　是ハ曽
我乃十郎祐成にて候。扨も頼朝
富士の牧狩に出給ふにより。東八箇
国の大名小名。悉く集ら
れ候。我等も人並に出まく存候
上　久しく添てかへる深き故郷と。
知り人まで我もいそぐ名残を
の末は我君の。〳〵。頃は皐月の雨ハ
卯の花の咲ちる花の形見

さても我兄弟や甚しき不
二乃裾野に参りて候
祐成 急候程に、富士乃裾野に参りて
候、如何に時宗、然るべき所を
兄弟をまゐらせられ候へ　畏て
候　祐成　いかに時宗、我ら兄弟の内
乃供しきを候して　さん候つ
月中あふらさびしふさえて候へ
相乃何ら悦候　祐成　左様に候
去候して　何ら何ともなや、彼祐経
かかる事よ　祐成　尤にて候へ共、彼者

ハまり前をよく有まじくにて候へ
共、折ふしにかなひ難く候して　さらバ
今夜押付けに討ちあるべきそれは
祐成　尤然るべく候さりながら、故郷へ
かくとも申さで、此富士の祐経
にて闇々と討まゐらせ候。母にて候
人の御歎き候べし。形見を故郷
へ送らばやと存て候　しかる人
く候　祐成　さらば鬼王にても團三
郎にても人をつかはし候へ　いかにや
二人のうち一人帰りまゐらせ候。

宝て角中に。只二人乗る所に
し給へ　薩　さらて二人乗る事無
と中給へして如何み異王深さの。
はなへ来り給へ　異王　異て給
いふ異王深さの。是今中分に
きるを厭ひて給へきか。はさ厭
引て中きりきの重み中給へ
異王　異王今めりしきさを作り物
う郎。何るみても給へ異て給
薩　今我々為経を討ふるみて
給ふ。故仰へ笠を持て帰り給へ

異王　さきを作て給へ。ひさくは
きを中。の中は中るを見面
中ん乗みて給へ。て帰るつる
ハふりて居る中くに給　薩　ま
きて好より河を望めるふ。
何て帰る中きを中そいふ
時ふ。多て出て給へ。いふ
異王深さの。大樹み中に
異て。高前より河をるあて作
られふ。さて船を帰る中
きら　金　て帰ら作て給

して何ふきまちうて神妙なるさま、飛脚帰
らふ泪ると申れ　祐成　急て帰られ
へ　鬼王　いかに団三や此方へ来りさふらへ。
扨何とら思ふ　団三　これらある八。
ぬく時もまちし申しゝ、ら中うの源一大
事を見え面申にきあるてござる。
飛帰まて本意に何らにて、飛脚
ら様て立てに当らて。何思ても
命を是らにてぞ行あるてら。
祐なら鬼王殿とまし　ちらへ申
まふ　鬼王　尤にて候して　何く轄、是八

何ゆへ仕舞て　祐成　扨何兄弟の者
は帰りもしまさて　此方へ来
見せ候へ、先々是を読みて聞せ候へ。今
程なり祐経を討、ころさら兄弟も
是にて宿意をはらさて。扨また
母上にまいれは母にて誰やの者らか
くと申候まゝ、それまて沙汰出来て
宿意ありうりとも、その甲斐をさら
にみな候らは、只く箱根を持ち
まとふら八里、母におよし申あらん。
其内蓑にても嬉しくおはしまへ下。

敵ふるのふ神ふ。器屋の禮とも
をのを徽上見をゆすにを生を世
世。あるき世までの動苗と上回あるき
ををき宮へを。鬼を溢三
京。ぎらを笠を落をらんと。
りふ輝のちよりも。石見の国せを
ふへに上夫人の笠を笠アを
例ふを。彼京を乃樊噴ら毎乃
衣ををらへをを。永き世までの。
笠とクや徽上人ら當代乃ら原の。毎
衣とを見をを名付ふり回ちをを人

我ら賜しき方を。偽ふ百きふを
ふらふを。思愛乃教アの型しを
を。我らを隠りる。ちをを伏るみヤア
きる。程ふ兄弟。又細くと手彼めを
まを神威ら人をまのをきふらを
又乃。乃ふ富ふ潜てらにくを。笠を
ふ徳を人乃ら人みふを。を鬼
ふまるを伏ふ。ヤ乃世を乃ふを
を心ふ伏てとふを人。ヤ光ルを不
宝とゆををを笠ふき命も教ま
まを光をるを孫る世乃形ら孰。

飛花落葉力ちからをとゝ思ふき
きよ。知てのとき世ふも肌のやりを
取出し。いまこそ世ふろ。位置を後
先へ。のたゝハ人のあく路のおりひ
力様とやせゝ。せゝて厨出智ひ
あまてゝ。世ふも毎上もそひやた
アゝ男合せ。力ゝとゝそまを書
アゝ仏力観世音。世力係ゝく
事世をたゝけ多人取 初懸上 既可
世も力ひ力 口 様もゝや聲
おゝ法力事事と書ゝるゝよ

永井の長武士

いそ〳〵ゝ使。使をみふ者ゝ
てゝ使取。知力をゝまて。涌せ
しゝのゝまて。いまゝら男ひ
聖力ゝるやゝ力様地よ。知
我力帰ゝまゝ兄弟。ゝゝと路を
アゝ上てゝゝゝる長ゝ
素寿角。ゝ力ゝ使力書ゝ。世を
作て。強ゝ上ゝ長路力
軍兵やゝ。我ら兄弟計んとて。
多ゝの勢を強ゝひ。義をせ
んとてゝるゝや。十郎殿。

何とて出るとはきて、雷の
仁田の四郎と戦ひなんひしに。相模
を討まゐらせるに。はや死ぬ
を一所とおもひて思ひしに。物おもふ
事の在所。敵をみ家てさらしに
ぬ。敵をさらさん。年会さよ時方
乃勢八騎をたて。物乃鎧
元ゑ乃事時家を見付て
あらあと。しらぬ物しやおのれ
らよ切。けきふ思ふ事をさる
らん物をとおもひて立たる

夜討の武者

雷の差出人をて形あらんと。
ゑ所ふ。
樊噲ら如あをふ。濃良ら稲用
を者して。五郎ら面ふ切てゑる。
時家ら古色五郎ら投ゑる方乃
古のきを割て。古をしら殺ゑ戦ひ
しら。何ゑら切ゑん古を拾五郎を
二つふ成てあてゑりゑる。
ゑ所の五郎九き前
みいきて吐をのをてゑる
みて鎧乃袖をとき。茅摺軽ゑふ

[illegible]と投ぐる事上手なる長川
のつきこのうえの物をそ。待ちもの
たるかり　今八時分も重ねる
乃ハ〳〵　かも長て誠の如くを
油断して通るをやりすてし
並へ出んと組まれ　已そ何者
そ　市の五郎九　ほらもの
〳〵　ちからみつらんて。あいや
〳〵と組ちらんて。ちから上り
あるを取をとよるをあいてを
た押へし。そのとき大勢長の

[illegible]
[illegible]。奉あるに　君の法筋の長
[illegible]

桃為童

[illegible]山と[illegible]山乃、集まれり。[illegible]道[illegible]や
[illegible]代あるら[illegible]。桃果て[illegible]乃事
み付へきる[illegible]あり。扨。鄰郡乃
[illegible]。其の水源出る。[illegible]
て[illegible]の宜旨を蒙り。[illegible]鄰
郡山て名[illegible]。是[illegible]や鄰郡山
[illegible]て[illegible]。名山路へ[illegible]
[illegible]鄰郡乃桃の[illegible]。[illegible]百年。
為童乃桃を[illegible]乃。[illegible]桃
[illegible]夢[illegible]あ[illegible]

いにしへを松の福力。嵐の
力にかゝはらず。枝の葉のそよ
ぎにつれて。神さびぬる。
頼みし。こゝろもて形を猶り様
の枝葉を恨る邪る
つきやふけぬるに人倫うるはしぬ
るみて。狐狼野干の極りあれそ。
人間いとて住へきぬ様仕生のあ
るへしなを名を求へしと人倫
道をぬるあまたそ。そもそもそ
仕生の物といやなれ。人間の

穢まみれ仕まし。慈善のあまたの果
そ。浮世をつきのそるら
ん。猶しらに肉の代を。除ふ業代
力徒者みて。ま信を生殺移りき
ぬしてつきやゆ様を生みて。けな
やくみて思ひしふ。業代ふ琴る住
者とそ。拘穢まの世代をいふき今
黎のふ帝前後の君。七百年ふ及ひ
たり。上云まり此くあいきらに人間
おひて。今を生る物ならしいう様
仕生力物やらんと。才力の中めを

あふ〳〵る經文し、いと妙なる形をを
ちそ住まの猶とそやへられ。示も
電帝より御枕に二句の偈を添
へてまゝ了たり。言葉了て篩く御
覧ありく　さきりそそいきかりける
あし、頓て言葉よくみて了まへる
上枕の安みうらひなく　下具一切功
徳慈眼視衆生、福壽海無量是
故應頂禮　けある文の菊の葉。
重く滴りや露の身の、下不老不死
の薬と成て七百歳を送りぬる。

汲くもそまるもの、かるやうよも勢
あふらん。御枕の枕辭やまふ平　有
雜乃如く文有事日すなはちけふ菊
乃葉に。きそくしく〳〵取るまく
まそにや雫もあるくしく滴る色。
閑かなる家のや谷陰乃その所
を郷縣乃山乃滴と菊乃の流れ。
泉ハ元より酒なるハ、汲みては勧め敷
ひてそ抱し、我もも飲みありや月を
雪の肌も酔ひにゑるまでよろ
く、弱くと、打よろひ言て枕を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

如月花

はるばる九州松浦潟より出る俤ふてみ。我いまく都を見しを程。
は秋思ひ立都へ登りみ上京住列
松浦乃里を立出て。
まちらぬ夫乃笠生をくいりら
歌ふ声さすると。根の音山さてまるの
あまく。潮音に程ふ星まさ
や。浦の玉山時山をてみ。命ひり
荷まきせのみて。石清水八幡宮
ろやみ。稲ら玉乃宇佐の宮

と同じ体なるものにて、殺生禁断の寺院
にもひれ、みをつくる聖をみ
めでたの花。たくを盛と咲乱れて
殺ふ。こゝに奇怪なる男ひれ
上掛も男山共称なるとみまてみまく。
なるものの花をうんみして、色をぐ
ひ露を含まて。古の昔をもんみ
歌をより。聖昔の花を常て男鉢を
連て行。桂木の面を掃つて松風を調
ふ。誠や男山乃女郎花とて古歌
にも詠またる名所なり。是も一切人

家つとあまをゝ花一本をもたらんと。
上はは女郎花乃名をあふ言まて
形のまゝ花を持まひて。花の色を
慕る案内をして。俗呼てめとと
に。我まふ名をはてたふ俗名の妻
とりへ。まつてやはを男山名を
呼てまけるめとの花乃。多くる花
面白て形と情をくるを持のふ。ら
ん那の接人をふ きそ御為を
ひとある人をてはませて。是程あ
く咲みてるめとの花を人情と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の古歌を[illegible]
[illegible]花うしと見て
そわるる。男山に[illegible]
[illegible]花を[illegible]
花。[illegible]知人の名ゆめで[illegible]
[illegible]つ本[illegible]
[illegible]花[illegible]
[illegible]と書る花
乃名ゆ[illegible]彼郎郭
の名[illegible]八五十年の名世
乃例[illegible]

女郎花ゆ眺めて[illegible]の幡宮へ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

四く首の方。方経まよか。比八月
半の頃。ゆの手幸形る手張所を
使ひて。上久堅乃月の桂乃男山。
ぞやうき影まて所乃。名所
も照そへて日もうけろふの石清水。
紫の衣も妙あるや。三の枝ふ新う
川る。まろ乃第を細出ある。法乃
非宮古ゆまろ乃。一柔地乃まゆ
岩松そだ川て。山そえ谷見り
て。清水枝を連ねよ。能の姿
まて乃まて。たゆしりまの姿
まて乃まて。こる世界もよてあら

ひ。
ひの里も回一月の秋乃。第の玉垣
みまろ乃。弥乃けまくもの一
市形くそ見ゆる。見まてて下
ふ陽まも市まもぬ石清水八幡
宮ふてみへ。能を市指と市指る
みてみぞ。ぞんかうゆまもきまもふ
てみて市。家乃まるよ乃。泉塔て
有難ふみ。て日日の夢てみ松ふ
市服中みて。暫。男山市も安市
ふ付まる。謂まてみまら。て乃ら何ゆ
まや。ぞまふ。めの市花の古歌を引て

載きをかてみる。扨て後るるて
井よ。男山と中るもて女郎花
付る。謂て井へ。山陰の男塚女
塚とて井を。此塚を不出中ら屋
し。生へ市人井へ。ふ〳〵見
あるを男塚。古形〳〵あるを女塚。
此男塚女塚とて女郎花の謂
井。是を井帰の名乃出井て
井き扨て井帰乃人の思い
〳〵苗字をいるる人中ら
女郎の人。是を此播山ふ井

類風を手し人。恥ら〳〵やいふ〳〵
をやり。旦上。後ら。法名ありやきねて
亦を歌を。後ら稚子ふ。弔ひの。後
アを男ひ形風の名ふ月ふ木
後きて弟ふ井ふ失ふ
〳〵〳〵〳〵

多ふ猛獣も。夢にるふ所まで
あり。しかるに。はなはだ乃秋乃
風。上うちもらまきろ蔦の葉乃
帰らんとつまよいすせ乃波も旦上迫
ふ。まの女郎花。も那の夫婦ハ
那まり。ひろ力。の乃法力ふ
上き新のさくふて魂力。那まの
つまきよ。上ふて都ふ住し
者。彼新風と舞をちあしふ
ふ。巣りの情ひる。人まを誘と
男ひるるる上女ひるる乃ちあハ。

那を猟ひるくるまを出て。那も恨の
男ひ海き教生川ふ方をあるる
新風ふを吹つて。舞き強き
りふまを。ひ人あき死験をの
那上注く死験を取上て。
山乃巣力を弁ふあ、ふ
塚よ女郎花てを生ひ
新風ふの男ふ探。却て我ひま
乃女郎花ふあるるよ。那花
色もあるる。苔も袖も我袖
も。露ふまを染て立よまを。

那らみるくまくまくまてまのよ
まてあひきのき。亦えの中はめて
乃ちくしに日仏 義ふよりて丹をを
ふ。男山のむくしをみつて如ら花
乃了時を。ろ和るを書しみ芙の
路の世まてもあんくしやく和尼
甚時ふ。彼長きをおりひとを。芙解
やふ我故ふ。よりあき水の泡と消
て往ある方と成し。むくへみ我と
くそくく。浮世ふ任ぬまて
そ同一道ふ和らんとてして上はくル

しにひて山ふ方を投て 同上 ふくめふ市
ふらめしより如塚ふ対て亦男
と中あり毛塚ちりをぬしふ
まほくくしに那らくまくくを。ほと
弟ひて仕ひのへ路弟ひて仕ひ
のへ 上ほら 同上 高くしこと
上 邪淫の悪男そ方を書て。
毛を力乃首もさしき剣の山乃。
上ふ高くしきくて天くくを
やとて。りのあまて。剣そ方を通
しに脳なそ骨を砕くあて

那らみるくしまくみて。のよ
まてあひきのき。示之のけはて
乃さて（日カルク 仏下）義ふよつて丹之
ふ。男山のむらをみつて女ら岩
乃了時を。ろ紹ると書しふ其の
路の世まてもあ川ら（ヤ仏下 ヤヲ下）や形見
其時ふ。彼長さをおのひとを。考慮
やふ我故ふ。よしあき水の泡と消
て往る方と成し。ろ（ト仏下）へふ我と
ろそろ。（ヤハ下）ろ（ト仏下）ふ世ふ住ぬまて
そ同一道ふ形らんとて（ヤヲ上）して（ヤヲ上）は（ト仏下）

しふ
ひて（ト仏下）川ふ身を投て（ヤ上）ゆめふ主申
ふ。ふ（ト仏下）ふ女塚ふ対て示男山
と申あり主塚ら見ぬふ（ト仏下）
まほろ（ト仏下）形のら者ろ。ろと
弟ひて（ト仏下）ひまへ路弟ひて（ト仏下）
ま（ツ上）て（ト仏下）ら陶淫（日上）ふ（ト仏下）ふ（ヤ上）
（上 陸奥）邪淫の悪男そ才を書て（ヤ仏）。
生ふ力乃首ふ。ふ（ト仏下）き剣の山乃。
上ふ高（ト仏下）き人て（ヤ仏）て（ヤ仏）ふ（ト仏下）れ出
ヤて（ト仏下）。り乃のあまて。剣そ才を通
（ト仏下）形石そ骨を砕（ト仏下）く。ふ

[illegible]

そもいふ仏ろしや。劔の枝のた
もむを。いろある花乃ゑまる事を
やよし。花ろ[illegible]。熟花の一時をゞ紅
るも由をそ如ゝ花をゑ乃うてゑ
や花乃縁ゑ[illegible]をてたひたまへ
花をうゝてたひたまへ

半部

是を都北山法聖寺住乃花
住乃僧ゑ。抑。我一夏の間
花をゑ[illegible]。ゑ[illegible]ゑ[illegible]成
ゑ[illegible]。色よきゑ花をゑ集めゑ花の仕
業を執行ゑ[illegible]。[illegible]
花仕業のゑ。ゑ仕業ゑ[illegible]
とりへゑ。ゞ花光陽ゑ[illegible]。何
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ。ゑ[illegible]
を出し。是一ゑ妙典乃題目ゑ。
ゞ結縁ゑ[illegible]。ゑ本面土ゑ

成仏首」（アシテ）とふことまことにたぶとき
ものなりて那らに三世の仏ふ花なて
まりるとき、ゆまふくらとて、草
花まことにとして尺りるゆふ白
花のおのまことにとこころのまゆを
ふらくるいらある花をえりて
上品ふれお供の作ゆふたてまつる時の
形あふ、あてくばまて手後せる
方形のら名をくめきて賜しき
垣ほふ魚をたまて、ちらしてぬ
ハ理をあり。ほてとの白の花みて

上実に峰とり白ノ。花のなる
しまいふる人をして名のらに
ゆ孫みをちらしてをを。秋を
ゆ花ノ草ノ信より来りて
抑て世みあき人ノ。花ノ供養
みなをん為ノまふ付ても名をた
まへして名をあふのらを歌ノ。
成ノ者ノ物信上何をの徳ふ
もして常ノ供ノふ宣みて
五条僧とゆくほノ。空月
せしまふ者ノてあを。面新をとと

長路の末花の陰の陰まで
[illegible]
[illegible]
[illegible]

みしてきらくと思ひ名乃[illegible]乃[illegible]
半藤おしの[illegible]。[illegible]出るほ[illegible]
るふ[illegible]ものとまらに[illegible]
[illegible]乃。[illegible]ぬと[illegible]。けく名乃
[illegible]。[illegible]のよるにらと[illegible]
[illegible]をゆるてみよしの[illegible]。[illegible]出るち
[illegible]乃[illegible]聲[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]勅佛[illegible]。[illegible]
きお[illegible]倉ふ[illegible]乃男ひ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

しりつる。[illegible]花を折まよせ。[illegible]
乃花おまて宮へ[illegible]。[illegible]扇の[illegible]
まりたうてゞしたしふけ花を
折て[illegible]るに[illegible]上[illegible]氏つゞ
くと[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]中。峠々に住僧玉善坊
[illegible]て名残を上都を出てさて
[illegible]や。[illegible]の浦海[illegible]まり。[illegible]
[illegible]の山越て。神の宮の[illegible]
[illegible]の橋。[illegible]越路の橋。[illegible]
[illegible]て[illegible]上[illegible]
[illegible]。[illegible]の松の[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]の剣の[illegible]山。[illegible]越路[illegible]
[illegible]越路の。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

山路一

[illegible]
[illegible]
[illegible]

承る。西方浄土八十万億土とや。
爰を西へ〳〵まゐる山乃上に家あれば。
ひとつの山とやらんに宿をまゐへ。
とても俗りの旅あまたて。宿物を
乞ふとあつまる。うちたゝ〳〵みて寄
アまをこし。首をたゞへ〳〵てはひ〳〵へ
ゆく　ひとつ山にまや。まゐるやう
きるみてまゐら俗に蓑てまいらに
あふ〳〵お君寄らせうあふ。シカ〳〵
をてひとつ乃山とて人里遠き所
あり。お君寄らせまゐんまいらを

始て善光寺へ参る者にて侍り。俄
に日乃暮れ宿借を乞して侍るに。
うまし〳〵も承はる物乃那。さらハ
うち寄らふにるみて侍し〳〵。
乃お君寄らにるて。所に男ふる
細ひり。承及る山姥の歌の下。
うたひてきゝませ。云形乃男ひを
と男ふ所し。生乃ふさをを着
し。お宿をる寄らせてまゐへいら
まゐ。ふる備をせるひまへ。
男ひとよりぬるを承はる物乃那。

初住と尼やまれて山姥の歌の一節
をもて所望をなせしいなを何をの
ぶやせをふ。何をかをまんかる
ア山姥をもてまるしやをなに
歌ア何とやらんをよ何鬼ア
山姥ア。山鬼をなるとなるをなに。
あらあやを。はなを名を世界を
アて乃鬼名をて後らせをふ。初誠
乃山姥をを何をををををを
謙乃山姥をを山ア住鬼ををを曲
舞ア鬼をアをを山ア住鬼ア

をを女の鬼をや。より鬼ありをを人を
アをを。山ア住ア鬼ア。をを乃ア上
ア乃をを作をを人をや。年比色ア色
ををををを。をの乃を世ア鬼ア
ア人ア魚ア人ア。恨を中ア者ア。
首をををを色名をを。世情ア
徳乃ア果を知らをを。世ア世ア
故ア人ア。然らを為ア名をを吊
ひ。舞歌音乃ア乃文乃。聲ア行ア
をををを。形ををを弱色を
強をを。婦性ア善ア人ア人ア

んと。恨をかの山の名ものゝ嘆
をして。聲をあらゝかの山姫ら妻鬼
をとゝまるとて上ふまのる
をかの物ら形。抱ら諸ら山姫の星と
妻とをくゝして秋ゝ山免と
おゝふしも義みあゝと重る。我名
乃徳をきゝん為ま。うれゝひ
てまとゝて。ゝら高物を嘆
ゝく上はゝとゝく辞しふゝ怖
や。義方の為やかゝとあんと。ゝる
ま形ら時の調ふを。原や抱ふを

勸ゝまゝて。ゝるゝをせゝの人ゝゝもさ
らゝて。ゝゝゝを待て月ら夜撃ふ。
謡ゝゝ我ゝみ。深ら窓を形
原。上ゝゝゝやゝゝゝゝふ月ら。さ
ふまゝ上ふゝゝを名ゝく海山色ふ
ゝ。言ふんゝをゝゝゝゝゝ。ゝ山
姫ゝふゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ。其時ゝゝ海ゝゝ。形ゝ衣ゝ
袖ゝゝゝ。抱ゝ舞をゝふゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

曰上

中入 上 餘

力ってのかけきよ。ゐの山ゐ。
ほそぬ。鬼めの国をたてくへしと
松風たゑ吹笛の。琴きき
落る谷川ゐ。もんさくまる曲ゐ
力。月ゐ琴きき山ゐ
しをれ。ゐら物きき力ゐ谷ゐ。ゐら物
きき力ゐ谷ゐ。ゐ上ゐ者ゐ前を打。
美鬼ゐ前生力業を恨。業
ゐ花を付るてくへ。
業生力苦を苦ゐ。ゐ反誠善ゐ
ゐ二。何をゐ恨て何をゐゐん。

義国自前力垣界。無何聊ととして
嶮嶮たる。山ゐ山。何まの立ゐ者
岩力ゐ力を制ゐ。ゐ
後ゐ力ゐ碧潭力色を流せる
怖しやまも物きき者力ゐ。月
ゐ力ゐ山ゐより。生樹ゐ
白ゐ。ゐ力ゐ。生山
焼ゐて。ゐ力ゐ。ゐ
ゐ物ゐ。ゐ力ゐ。ゐ
ゐてゐ。ゐ。ゐ
ゐ上ゐ怖ゐ。ゐ力ゐ。

そらまぶれよりは雨を出る。袈裟を
くるまとる。と髪みだれ荊棘の雲
を載き、眼の光は星のごとく
まて面の色は沙丹塗の如く形の
そらしれ鬼のごとく全身を
めて見るるを。何ぶたへむ
ぶ。と見一口の剣。
神のごとき怖しき。剣を
自ら何と問へ。我が
止む成ぬべき。浮世捨てけりや
と。

みるへしとそ。花の清香月の新。
はるそ思ひの杖まそふ。行遍人の
歌のつて。生一刻も何ぞ捨ぶを
やうくうたひつへし。上美山上
そそ角。いふ乃そぬ山ふ
と一群の山雀羽をたくゝ鼓を滝
波と神を白妙ゝ雪をめそ
花乃と難波のるゝ法
形らぬ里より里の山姥。
何鬼の山姥ら山めそりそそる
しき上まとゝ山を巡ら

より起りて。なほ雲とゝまるゝ夢のみれば。海と海の露とゝもとして。波濤をたゝむ力をもて上一洞窟しき渓の聲。指手をたゝく山ちの里を聲音を吟ぜりしてあり。聲のとゝまぬ所をもとゝしてしも寒影やらんして孤月ちる住山ちの力をしき。山ちる山して海ちゝく。岩姿ふしてみをして前みて海の深くとして月をあ乃光を揭事。後みて山紅松巒

ゝしとして。風雷乱乃。雲をを碎ちる紅表を乃。たりきちらぬ山角。雲東ちゝよりふちる。解をきれゝ。伐木丁丁として。山更ふ鳥ちり。法性峰をとゝして。赤堂提を見ケ。色の岩原き粧びをして。市廛を表して重楼閣みの乃ゝ。布山嶺。生ちるちゝ者ちゝ。嶺をゝみを仮乃ちぬ山乃奥ちゝ人家ふ紅ちして 日上 傳る雲の弟

を。假の自性を変化して。美貌佳
人となり。生れし鬼めと成て。自前の来まるを。
西一姫と云る時。食事を空生徒
の。佛法のまゝ世をなり。姫の人
を提げり。佛のまゝ云なり
云まるゝ山姫なり。都まゝ
とりの在て。ある力を。姫人を
拵へる。時に山賊。種々
の。花の信。休む間を荷を肩
をゝ。月後ふ山を出。里まで
送る拵へなり。みなる時に織姫

乃。五百機なつる宮ふ力て。枝の葉
にゝ紡績の者ふ力をおまく人
をたゝる業をの。賊力のみて
ぬ鬼とやくのりらんや。上世を空
怪のうちるる。同上 ゝゝぬ神
おく宮ゝ抜者力見埋すれ。
うちゝ人の強力。なる聲方
強力。禮ふ聲の四郎ハ達山姫
ゝ業あまゝや。都ふ帰て。世達ふ
せ申て。男ゝ拵る。あ拵ゝ
たうち拵よ何るゝよ

[illegible]
乃山路々山めぐりしるべとなりて
[illegible]河東乃国やまゑぐり[illegible]一格
乃信つ河の流れ。皆是他生乃縁
[illegible]。すべてや我名を名月乃。
浮世をとるつゝみ。狂言綺語
乃道。唐仏衆乃因[illegible]。
[illegible]市名残惜や。暮中て帰る
山乃月。まて惜ふ咲[illegible]
[illegible]を[illegible]て山ゑぐり月秋
[illegible]を[illegible]て[illegible]月
[illegible]山ゑぐり月[illegible]

[illegible]
て山ゑぐり月ゑぐり[illegible]て踊り
[illegible]ぬ[illegible]の雲乃[illegible]
[illegible]て山路とあまる月鬼[illegible]
[illegible]やゝと時[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]山[illegible]山[illegible]
[illegible]
[illegible]

車僧

淺の世を車僧

乃時りまて上淺を空を

谷の額の雪。ちらや曙

那の方ら山。瀧乃響る聲淺

て寂る寺乃大井川。切籠の灯乃

うも枕ら神る乃砂乃。空る

程高く昇るは。西山寺の月ふり

ニニ

暫は所の車を立。四方の

事を詠めて思ひ出して居る

の車僧 何ちて 淺世を

うき世をば憂世をば何と思
へる僧。まゝ孫の手ふみ者とちて
みまゝ　うき世をば世をば思らぬ
を事僧。のつらうる色く輪ちから
つらして法もうるべき孫ちから
ちてといつて　ま　空色風流し
我名のこと言葉乃山ふいたれる
人こと愛言乃嶺ふ住家　和尚僧
乃まこと来て　ま　一所不住　車こと
いふ　ま　出家乃母車　こと　ま
思らして　おしらも　ま　おまして

ひくも　ま　戦まぬ　車僧乃
三男を為狂如出家をして。出るみ
川乃事僧ち那。めたしも直ある音
ありこと乃ふ。の里ばりしり
乃ふ人心空ある空をみれ。ふだ川
こちら冷まし。風も強ふ
愛宕山。峰どりしまして言みて。
車駕こと　ま　我住こと愛
宕山。ちこ乃坊ち薄宕ふ。ば人ふまや
車僧。なこと乃山乃事空
のして事空ちり

宮山擔の石の雪橋を。花指人の
路をかもあり。宮や雪中の山路を
し。扣車輪をいろふ車僧。我拉
ぎき者ならし。と。擇んの古の路
路をあらんや。越らをもろ同う
よく時まで。ひくら移ろう寺僧。上に
首のみ。ふをよせよ車僧旦上善哉
二川を南方の稲方。仏法師まん
世法者。煩悩をもて善提ろう
仏仏をまもて二世をもろう寺僧ゆれ
ぎを中坊方。。り者も者

砌移らをいのるへし。行せを行法
小学るおぼ。ぎよ。いま車
僧行競へせん。いふ仏坊ろも。
まふをよろ。浄ろ。ぎをも
ぎよを石坊石減。道中の時学
石ふ。宮中ふき時ろ中あらを。
雪中の車をぎろ。ぎろ方
石をいき拾を出。き拾ろ方を
石ゆふ方。我ふをを引きめや
あをを。をををへまを。杵を拾
て車をろ川。き。方車をう

なて行へきら。牛をうたてゝ行て
しや〳〵と車をんあり。
扣牛をうたんとゝらへたて
馬や池人牛乃道。アとゝる牛
をてあてうんしてアとゝる牛
と扣ふそゝ人牛をきうり
ゆゝ〳〵と扣お信乃うゝてゝ
へきゝ車乃ゝてまちゝ
法の白牛ゝてうせんと。抑ゝを揚
て虚空をゝてゝ上乃男後ゝふ
ちのまゝ乃。ゆゝぎ出りて今

をゝ。是猫車とアとゝ行るゝ牛も
あゝくゝとゝらぬふ。あゝとゝゝ
知て孔。ゝをゝてあゝりゝるゝ
乃山乃信地ゝ道をゝら。法の道
の道扣りゝて。生死の行道那
をゝうゝ上所ゝ為をうゝ世の
嶮峨をゝ。雪の山ゝ道路ふき。
車の輪ゝ行ゝ男乃ゝ乃雪ふゝ
ゝゝゆゝ。上雪山乃道ゝり
と。法のまゝ信ゝふゝ行ゝりぬゝ
ちのゝゝ上 上茅乃ゝ車面ふゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

少や。俄ふり雪降。さらも雲アるる
弱さへふて。前後をそうしていて
いるふ。燈火時ふしてハ歩り虞氏の
家乃面乃。何しをもひらに雅行を。
見えいるくもへき仮アるも形し。何ら
美巴や光 上ッ 滿法乃拔乃面新
アミイ
アふ後て。家ものの燈乃解も光
に。何とあるく変もあんとて。保拔
乃ら稲の解。市灯乃光あんとふ
ちて。神さひんもさるふ。社
頭をアるもも灯もあしもしあの

解もやとに。神もき稲ら乃あらふし
とさて中ふ。宮雪獨もあきてるやよ。
よしく市灯を闇くを和光
乃影をよ、ものもらし。何ら左沙
法乃宮雪もや。あふくもを
乃光アふ貸て中アるきてるや乃光
は涯ふもお者もあ。今少し先
へ中通ものき。今の時ふり
光もアるに。然も乗る弱さふ
して。前後をヒて社あり
はは下馬を後も形のアあるの

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いて神武ふるふみ[illegible]。男し
あらしもこの[illegible]力、まをんみ[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]
あまて。なりとほしとも男ふへき
[illegible]。[illegible]の言[illegible]
[illegible]。なりとほしとも男ふ
へきらて。而[illegible]。[illegible]の
あをぬ耳ふ。ありらして男ふ
は歌を。あらし彼[illegible]へき[illegible]
みちらぬとあまて。あらし彼[illegible]
[illegible]上よりの間と

[illegible]の[illegible]
あまて。[illegible]なりとほしとも
へきらて。なりありしほ歌や
凡歌にて[illegible]義なり。[illegible]
ちまて[illegible]あまて[illegible]
[illegible]あり[illegible]和歌力[illegible]
神代[illegible]。今人偏ふ
なまねし[illegible]を[illegible]
[illegible]。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃真ある道を学ばんに、元異
てなきを歌の真なるべし。
つてなくしてあり。人代ふるもて
きふるくさ蔵る風俗乃。やまと歌
奇特に混和のれるひとなり。
雅俗ふたつふたらまくし。風流
乃中に蔵る本乃花の和
えひに。亦秋乃幡乃咲の華何
きろ和歌の種ならぬ。さきらく今
乃歌。且らよしを中をあくまく。
あくらは神も納受のんをうくる言

人を上のるまくふはの伝乃
園の清みふ新みる。月毛の中弱
きを門きまくもりまきふ。本のふと
くふ先くり。幾多の南枝ふ巣をと
事を馬北風ふらくくり。祝ふ和
らく神ちくふ。後ろ神道乃まを
くをはふらさくくき。いくふ中ふ。
宮人てまくまくく。祝言をくらく
せらを。神道をはくしめまくれ
諸君いてく祝言を中さんと。神
乃ちら中ふくふ中まくも。

[illegible]の花かつして雪をちらし
て、再拜して、上洛。再拜。う
やまりてまつれば、神つるぎ。八人の
八乙女。五人の神楽おかまし。雪の
神を立て。さらの花をさげ
て。神宮をまつりあたてまつる。
神託みせて。神力を
りたん。[illegible]。神神宮をた
しむる。和歌よりよ[illegible]
あし。生[illegible]神楽を奏しお
[illegible]の神。[illegible]

[illegible]。神の岩戸力を[illegible]神。男[illegible]
[illegible]。和光同塵[illegible]結縁力
[illegible]人[illegible]道[illegible]利物の徳
神の代七代[illegible]
[illegible]情物[illegible]
[illegible]地南[illegible]。黄泉の
道[illegible]。[illegible]
[illegible]詞の主力[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]の[illegible]木[illegible]
[illegible]。[illegible]

[illegible]雪をちらし
てゝ　再拜して　上　謹上。再拜う
やまりてまつれば、神つるぎ。八人乃
八乙女。五人の神楽おかまし。雪乃
神を乞て。さらの花をさゝげ
て。神宮をきしめたてまつる。
神祇官仕て。祭る神乃を
りをんかぐら。拍神宮をたく
しまる。和歌よりよ仕まつ
あし。さ中みも神楽を奏しお
ゑ乃神。人たゝ〳〵もおりて白

ひし
中ふ。神の岩戸乃を乃神。男ひ出
らまて。上　和光同塵をて結縁乃
きゝ　八社神道乃利物の縁
神の代七代　き　を取をふ人夏ふ
して　情物をつるあ
上　地南事始まをしより。菊歌の
道ふて。貴ふまを　下　今つらゆき
う詞の末乃〳〵。如ある人を感
ゝ乃　仮ふ姿をとゆるとて
上　ちの笠木ふ立後ま　上　なまと
まゝと。みしまふてくまとゆう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と[illegible]。花をやはのさ[illegible]

[illegible]

住人、増屋の[illegible]命、住直みて[illegible]。相

も今度宇治橋の合戦み素[illegible]

るみの肩を射させ、[illegible]矢をぬきんと

せしなり。[illegible]みて其毒葉を見矢

ひて其。[illegible]へて。伊豆の三郎[illegible]

[illegible]より中[illegible]。今て度数の

者。[illegible]今伊豆の三郎へと名[illegible]

住[illegible]都の宮[illegible]。

朝[illegible]る[illegible]衣[illegible]

[illegible]

[illegible]。[illegible]伊豆の[illegible]

三郎みちやく[illegible]

[illegible]。伊豆の三郎みてい

ふみちの[illegible]市前[illegible]

みて囚人のまりをて宮橋とや

らん中[illegible]。[illegible]数面中[illegible]より中

[illegible]へ[illegible]畏て[illegible]。[illegible]内へ[illegible]

中[illegible]しかく囚人の[illegible]宮橋殿

の[illegible]。宮橋殿の

市内[illegible]由中[illegible]

まてあり。はよりゝ市中をあるくを
ゆへしかくいちらしたる由をやまふ
いるまてあり。あるひてゆへたいぶ
面をふいるとかいるまてあり。又
大法をてあり。たかうかをを
ふいるとかいるまてあり。相何
とかをきて大法をいて。たか
かうふをあらせられゆへ。家前
かくの法をらしかくたかうふをあら
せふいるふてあしかくふはやてあり
寿葉 二

寿葉撥力所係のくたかうふ
うふをあるとゝはるふあり。相寿葉
後のかをふて何をうをあるを
寿葉うかをふて兄。増をたかを程
直とやたかてあり。今後字法格
力をあり戦ふ。寿らるかかをを射させ。
寿矢をぬんとせ一百ふ。寿葉ふ
入一市をふ法をてあり。承あり
へて。をを行ふ謀せらるる由中あり
百。弱を墓ひをとをあり。
寿葉ふをを引合て後をあり
市名字の程毒細らけををあり。

後に因人の所縁に対面を望
く禁制なりしなれども。素盞嗚
乃尊なるに。別る痛哭中に百姓
面を伏せ中にふるへるなれば。暫まし
て待給へと。人乃中に申いら
ん素盞嗚尊の力の事を見て程直
と名を呼ばるとなりなれば。そと
事翁面を上へ方何と云ふと
名を呼ばるとなりしるるとなや
申しのる方後にまして
見をそなぬなれば申上方

きや。西一く事を見と事名を
出物を。先物の陰より事後を人。
何を那る者なれば方何まを見
なれ。諸代君仕ひ一家人
なれば。名を呼ばれ方人
相を後者を前を中なれば。名を
呼中ふるなれば。家前乃
人の子を見ら是なれば春
葉嚴を面中なれば。物の陰
より出後して。見なれば那一。
諸代君仕る家人のよ作

れ。何とて家人の方としてあるべき
御方なるべきを承れそなして何と
素を家人とやはやまり中し
乃ち〳〵先市人を鎮めてゆるし
き給へ。家人乃方として兄と名
乗り。是をもるべくとりれ
ばきう。青葉もまもりしき者ふ
て給ふ。兄と名のらて一宮之侍
せるべくとあ方様の中給へ。ふ
角ふ引合せてもの人を給へ。さ時兄
う家人う乃務方を見せ中せふ

ばるみて出き出て中へ中て給へう
なるひもあき市人兄種直みて給へ。
はせて素なるを出し引合せ
ちうしばるる。さ時市袖ふもう
き市前面ふもるみて給へ。新
あ給へ。いふ青葉屋。家前乃
者をもなら〳〵と中直て
て給へもうあるべくもるべ〳〵
なる者の人中にはりふ使ふ給
給ふ。帰るをもう一日市使はへ。
はせ人法へ〳〵屋ないふ青葉。

何とて素を家人と云ひ對面せ
ずとや中さん。扨てんぬてあれ。現世の
事をつゝみ。ぬ捨る程の石覺人
あまたあり。是とてのらんも面よきし
と思ひ方捨ふ中ら。事あらんもつ
うしふちてあへ（るか方）汝三世の
こを思ひ。是と素ぬるゝ
と切ふまとも。汝とたゝふ帰ぬ。
世間ふ中面き中うハ。素芋ふて誘
せらまあへ。是捨ある市帝ふ敬
るへまよ中あへして捨ふ家人

素素 五十一

とたゝたゝや。汝ふ事乃こを捨ふ
ぬとねる。櫻ふ花ふ彩るへて。
何と家人とたゝたゝ。孫ふて後
まよるはらし（るか方上）時をえてぬ
とたゝたゝ夏ふ立。是ふまを
ぬへまら。ぬ後帰まとたゝ
ふ是して山皆陰る時面ふ。扨て
たゝたゝぬ事ひふぬ（るか方上）一ふ年の
名たゝ。雪ふたまらし後ふ
ぬして是を物ふたふまて。いん
乃ぬたらハ文をたゝ（るか方上）春のたく

いとゆ西をうつして上々の皆屋の
春芽ハ方 現実乃兄を者人らふ
なりまして逆正るを者き方 諸
ハ浮き者りあるしていやふ角ふ
命を捨るとて。猛直ふて後
きらんや。刀ハ召まん。上あふ市方
志ふ刀を絵アとへ方上あふ
暫くおいふ四上命をはしまず
さんとて。家人とて中つまを者
不者ふ成りるらゆませのへ兄
市前 上 猛直も春芽ふ。
春芽 六

市。因人市後乃ふをのも。た
ふ乃ふを思ふ。ふ。実持へき
兄市ありて者ふ拂を雪
ふアと 市兄市乃ハ問
答を承ア。幸も前仕て
出。ふ猛直ふ中ア。春芽殿を
痛アも市ふ者の義ふ非ハ。幸も
ふを了人持て出を。今ふ乃ふ
橘乃会戦ふ先ひ中て出。幸芽
殿乃市印指。ふて出者ふ
ふ乃ふ出ふ程ふ。通ハ常

もはらを給へり。中清一路を
ゆくせゆかんとて力合をおしまれや。
何とやらんとて。ぶとて諸ふてあり。扨て
素戔嗚尊もいかるるもいかるるもおしまれ
よ。いろふ種をふやしまれして何ふ
みてまれてきて又強合より起
仰えて。第根を越さぬ先ふ。因
人皆く諸しやせんとかまるもまれ。
痛しあら素葉撒きを諸
しやへし。種をたくへき帰
まれへしいふ言葉撒みやし

素戔嗚 七

あきまきのまれきて何ふみてまれて
素葉八てけあきまきのふみて
まへて。素葉を助命。素を諸
して給まれへき作ふみてまれ
まれ。素葉成力市ふ。ふ目梁
て市目ふけてまれ成ふしくまれ
て市言ふみてまへとも。大やまの杉
市ふのまれ。知らふ川へて給
まれへきいふくれしてて
成やしくまれしてきからて素を
もはらふ諸して給まれへき夫

角もみてをしていふまうす。
古郎へ家朝カラ兄を送り出へ。
いふ小さ子ッと市前ふをして池ハ
古ふ帰ア。毋市ふ中ア居きまうす。
種直ハ帰る人き由申て出へ
ス。者共ラ宮ハ兄捨ラ立て孔
出三郎を伴ひ引ハよ一ラ
て中ハ。是ある者ラ種直ふ。
孔方を拔きぬ中仲カ觀世ス種
直ラ彩兄ふ市逸ハと能ス中ハ
へまう みけみて妻第ラ。宮ハ居カ

みてをよ一ラ居て中ハ。
ラ立ス出て鳥羽ふカ。我ア立ス
袴を切ラ。ス立ア脇ア一筋を。
筋ス接ハ世ハ中ひ一ハ。
ラ彩兄ふ市逸ハ。
あや市ふて。我ふて殘ア立ス
を。第ふへまふ立て那ス。成人
カ子を立ハ市ス立て日下 欲き給
ひ毋上カ市ふ中ふ上ひ男ひ中ラ
ま立て痛ラ中ハ。ラ上ス宮ハ生ハ
生る者ラ中ラ毋を殺ハ

ひ
まる。あらんに一世ゐまるへうら
に。世と以て父母乃恩徳ゐ
また十二因縁より廿五有乃流転。生
して死して死して生して流
転ゐるる生乃報ゐを以て
後ゐ自他あらんして結まる
羊、鹿、牛車ゐ乗ひ必定の場
を出して。煩悩ゐく乃三の縁
ゐつまるまゐる。そうあるよりまた
また生死ゐ流転して人間界ゐ生
るまして。八ゐるしゐ解まに。

因果縁をおのんみよ。
ほうきんの縁。魔ゐ車輪乃
ゐる。我人を失へる。ゐまゐ我
を害に。世と生界。そうみの法ゐ
流転して。仏法乃無相をこうる
せゐて。孤。弱ゐ以ゐ。非ゐ
とゐあらゐ。仏法流布の時。
我乃法ゐまうんゐ。強ゐ所ゐ
つまる。仏法衆断ゐ。有時の
月の。隠ゐるゐ人界ゐ見て来
迦乃教ゐ仏聲。無光ゐ

函の。涙ぞ「き首」ながらて達への
浄土なる。毎年毎年。所をあも
ふる。彼毎年やや 日上 義人来路の。
古郷をて伊豆の国。南無や
三路の。彼。本地方面。智徐仏
是をちんでんの。ちくみて。
中有の様の空。ぞ闇冥の。
をも我らを思へ。後へと。
彼彼中なる雲のふるえの枯て
みこ。いかや咲めらん。
ちりぬと後へ高僧聖。

七人のうち 四人姉妹

生後志。何ぞ宮別當の市中
みよと。因人七人免状の。
みよ宮の手者豊前の国。
二番の遊後の二戸。三番の増
尾嘉葉九。狩りに出てよみて
養。上やたるて嘉葉と 日 右刀

乃下より引こなして命なくる事
なり。なほ中〳〵に思ひぬ程
のゝしり那。なりかんなりかんの。
聖ふかえんかんの地〳〵やるべの情
なりうなき。殿乃よりこなさまま
きこふ衣ありなきいろふ達の
者。手柳の物を奉らせ給へいろふ
種重ね中れ。以前も中ちこ。
紫殿乃事ゝ。直ち命も助け給
へり。中達一路を徒せ中なを
乃急乳叶てなよりて危も角も

富樫殿ゝ住世中れ
〳〵。〳〵〳〵祝こいこんと。富樫ゝ家ふ伝こる重代の太刀。
春栄殿ゝ吉日。まぬてゝ枝方
嚴乃日上狂ようこゝ乃きりいきの。
新めこるや朝日新。孫三の三
時乃神風も吹給ふき世の名
め給へ〳〵里も限り〳〵ふ。筑辰
令月こゝ時をいふこめてけき。
狂〳〵めこるきりいきけ。夜まちれ
春栄。お留ゝ立て狂こゝ乃。宝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六浦

[illegible]

乃根ふ出ふよ。[illegible]陽[illegible]信

[illegible]修[illegible]て[illegible]。我いまく東西を

[illegible]て[illegible]ふ。け秋[illegible]之関[illegible]ふく

[illegible]。まより陸奥乃果[illegible]り仲せ

[illegible]と思ひ[illegible]上[illegible]ふ[illegible]乃関乃

[illegible]ふ。り素[illegible]

[illegible]海乃[illegible]路を[illegible]山を越。

[illegible]扶[illegible]

[illegible]空も星[illegible]夜[illegible]山を越て

[illegible]
白浦の里は[illegible]
をりも一歩[illegible]
里ひし[illegible]
[illegible]
白浦の里[illegible]
[illegible]
[illegible]

夏ものこの乃ちとく尺とを形ゑ。富
を形ゑよ。と宮能所歌
智免と尺。ゆとて古へ鎌倉の中
紐と乃和仰と中し人。ゑ業
を尺ゑとて けるゑ来尺のひふ。
山と乃りみちいまくあるし技ふ
し。けゑ一と本ゑきゑ尺ゑ業
名所とたとひゑ尺らて。ゑ和
乃ゑて和へた。いふて けつ本ゑ
とまたん。山ふゑと川在乃りみち
を歌 させひふより。ゑふ

とみちをとめ技とき所ゑ
歌乃所歌ゑふ。我数ゑらぬ才
ゑまとゑ。ものゑふらとゑ尺技
のゑる けゑ本乃跡とゑと。袖乃時
ゑと山ふけきたりて所ゑらゑと
乃所りものゑふ。いよ〳〵けゑの和
目みてゑと技ゑ技とき乃
所歌哥の後。ゑふとみちをゑく
技りる。いとまたいとゑるるゑらん
と宮所ゑ富ハ所技り。ゑの所歌
ゑ頼りし時。けゑふゑ思ふゑ。ゑ

る業力山里力。人もとひまぬ
ちまた力屋より。我生をてみる業
せんと。いつてうるさい歌をも
弾ずるとき。功成名とげて方ちり
そくらて。是天の道なりと云。
云力ちを深く信し。人ふもみ
ちをとめいく。唯常稽古のを
くるをまき上はをちまきれちる
り形。はをちんをうほをまて。ちら
しはるこをんの。市名をなり
まふ屋しをんは何をうつむ

屋を。我をはをの情なるう。お僧さく
まをはふをと。唯人ふ美ふまりた
はを。ふ貴ハ振居ちまをして。よりはら
ぬ法を説まふ。まねて姿をは
をまんと日ふ夕力空。冷しき。
はをちふ屋の面。まをの籬力寒
深き。多ちふ花をうきはけて切
御ちはらはちりふをはしを
上ちをふらんふふ名力。
法力春も松風ちをやふちる
秋の夜力。月ををはる屋のおも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]